

ど だいら おおすぎ 土 平 の大杉

市指定天然記念物

竹原地区の梨郷神社から北に 1.3km ほど行った土平地区に、市指定（昭和 47 年指定）の天然記念物「土平の大杉」、通称「山の神の大杉」と呼ばれている天然杉があります。目通り（※1）幹回り約 6.5m、樹高は約 25m、樹齢は 700 年から 800 年と推定されています。主幹は少し傾いていますが、日の当たる樹上の方は枝葉が茂り、こんもりと広がっています。一方で、中程から下の方は葉の付いていない枝が四方に垂れ下がるように伸びています。この形態は、日本海側の地域の天然杉に見られる特徴です。

「梨郷村史」によると、この大杉は、平家の落人（※2）中川良元の家臣小関庫之助が土平地区に落ち着いた際に、自分の屋敷に山の神をまつり、また屋敷の守り神として巖島神社を勧請（※3）し合祀して建てたお堂の神木として植えたものと伝えられています。また、木の根は数百年の風雨にさらされ、根の下に数人が入ることのできる空洞ができ、根元に建っている石碑は根の成長に伴って根に挟まれたり、石碑の下の土砂も流されたりして宙に浮いていたとも記されています。

しかし、今は土砂に埋もれたのか、木の根元の空洞も小さくなり、石碑も見当たりません。杉の木のおそばにあった元々のお堂は無くなり、昭和 21 年頃に建て替えられたというお堂がひっそりとたたずんでいます。そこに上る古い石の階段と鳥居の土台の跡が歴史の流れと重みを感じさせてくれます。

地域では、毎年 4 月の第 1 日曜日に祭礼を、7 月には下草刈りなどをして、山の神とその神木としての大杉を大切に守っているそうです。

郷土の宝であるこの大杉は、想いを寄せる地域の人々の手で、未来へと受け継がれさらなる成長の歴史を刻んでいくことでしょう。



※1＝人の目の高さの位置。

※2＝源平合戦で源氏に敗北して各地に落ちのびた平家側の者。

※3＝神仏の分霊を他の場所に移しまつること。

南陽市文化財保護審議委員 山口吉子
平成 30 年 9 月 1 日号 市報なんよう掲載